



道路防災講演会

平成13年度 道路防災講演会

防災と危機管理
田中正博氏
有珠山火山災害と復興
長崎良夫氏

安全で信頼性の高い道路を目指して

道路防災週間 平成13年8月25日(土)～平成13年8月31日(金)

去る8月30日、道路防災講演会がホテルポールスター札幌2F ポールスターホールにおいて開催されました。

この講演会は、各道路関係機関で実施している「道路防災」に対する啓発活動の一環として毎年行われているものです。今年度は、北海道開発局、北海道、札幌市、日本道路公団北海道支社の主催で実施され、関連機関の協力のもと、400名を超える多くの方々に参加していただきました。

当日は、北海道開発局建設部長 竹田 俊明 氏の開会の挨拶で始まり、最初の講演者として虻田町長の長崎 良夫 氏から、「有珠山火山災害と復興」と題し有珠山噴火前のエピソードや、虻田町の今後の課題として道路をはじめ多くの傷んだ公共施設の復旧、そして噴火後の火口をどういう形で活用していくかなど、噴火による災害の厳しさと噴火後の展望について講演をいただきました。続いて(株)電通パブリックリレーションズ顧問の田中 正博氏からは、「防災と危機管理」と題して「クライシス・コミュニケーション」の重要性や、



長崎 良夫 (ながさき よしお)

- 役 職 / 虻田町長
- 生年月日 / 昭和4年(1929年)生まれ
- 出生地 / 虻田町出身
- 最終学歴 / 旧制伊達中学校卒業
- 経 歴 / 昭和23年 虻田町選挙管理委員会書記
- 43年 虻田町教育委員会教育次長
- 53年 総務部長
- 53年 助役選任(就任)
- 平成 6年 助役退任(任期満了)
- 10年 町長に就任



田中 正博 (たなか まさひろ)

- 役 職 / 株式会社電通パブリックリレーションズ顧問
- 生年月日 / 昭和13年(1938年)生まれ
- 出生地 / 秋田県出身
- 最終学歴 / 早稲田大学文学部 英文科卒業
- 経 歴 / 昭和37年 株式会社電通PRセンター入社(その後、現在の社名に変更)
- 58年 取締役業務局長
- 平成 3年 常務取締役メディア局長
- 7年 専務取締役メディアリレーションズ局長
- 11年 専務取締役本部統括
- 13年 顧問

道路防災講演会

● 日時 / 平成13年8月30日(木) 13:30～16:30
 ● 場所 / ホテル ポールスター札幌 2F ポールスターホール
 札幌市中央区北4条西5丁目 TEL 011-241-9111

プログラム

■開会挨拶	13:30～13:40	北海道開発局 建設部長 竹田 俊明
■講 演	13:40～14:40	「有珠山火山災害と復興」 虻田町 町 長 長崎 良夫
<休憩>		
■講 演	14:50～16:20	「防災と危機管理」(株)電通パブリックリレーションズ 田中 正博
■閉会挨拶	16:20～16:30	北海道 建設部長 逢坂 禎

主 催 / 北海道開発局・北海道、札幌市、日本道路公団北海道支社
 後 援 / 朝日新聞北海道支社・北海道新聞社・毎日新聞北海道支社・読売新聞北海道支社
 (財)北海道道路管理技術センター、道路防災エキスパート事務局

道路防災週間 平成13年8月25日(土)～平成13年8月31日(金)

いかにメディアや地域住民に対して効果的な情報開示をしていけばいいのか、様々な事例をもとにスピーディな状況判断がいかに人間の心理状態に影響するかなど、とても貴重な講演をしていただきました。閉会の挨拶では、北海道建設部長代理として道路整備課長の上楽 喜久夫氏から安全で信頼性の高い道路の重要性について話され、盛況のうちに講演会を終了することができました。





北の みちぶしんフォーラム 道普請寄合

日時／平成13年9月15日(土) 13:30～17:00
 会場／ホテル ポールスター札幌 2F ポールスターホール
 主催／北の道普請を育てる会
 (財)北海道道路管理技術センター
 後援／北海道開発局、北海道、札幌市、
 朝日新聞北海道支社、日本経済新聞社、
 北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、
 読売新聞北海道支社

■テーマ■
 『みんなで育てようふれあいの道』
 『道の文化をとりもどうそう』
 『愛で育む北の道』

「みち」は古くから地域のコミュニティの場、文化の場として、大切な役割を担ってきました。

かつて日本では、自分たちの道は自分たちの手で守るのが当然のこととして道路の清掃、草刈り、補修などが地域住民の手でなされ「道普請(みちぶしん)」として定着していました。しかし、急激なモータリゼーションの進展に伴い道は通るだけのもの、だれかが管理するものと以前よりも遠い存在になった感は否めません。

しかし、今日、地域住民の参加、行政との連携による地域にふさわしい誇りを持てる道づくりへの先導的な取り組みが日本各地で展開されています。

北海道においても「道普請」のような、地域が道を育て、地域のコミュニティ活動の回復を図ることを目指し「北の道普請を育てる会」が設立されました。

構成メンバーは、北海道大学大学院工学研究科 小林英嗣教授を会長とし、同大学都市環境計画学、交通システム工学 瀬戸口 剛、高野 伸栄両助教授の他、「花人街道 237」「北のまちづくり協会」「札幌市琴似商店街振興組合」「R33 3号丸瀬布市街ボランティアサポート」「恵庭花のまちづくり推進協議会」「NPO 北海道・花ネットワーク」「江差町歴史を活かすまちづくり」「岩内町若旺会」などの団体からなっています。

去る9月15日(土)には地域住民と行政の連携、役割分担のあり方について考えるシンポジウム「北の道

普請寄合」を北の道普請を育てる会と(財)北海道道路管理技術センターの主催で開催いたしました。

当日は、休日(敬老の日)にもかかわらず400名を超える参加者があり、センターの木元理事長から主旨説明と開催の挨拶があり、引き続き基調講演として「これからの道路行政と地域づくり」と題し国土交通省道路局企画課長 谷口 博明氏から、また、「みちを育てる、まちを育てる」と題し小林 英嗣教授から講演をしていただいた後、スライドによる道内の事例紹介やパネルディスカッションが行われ大盛況のうちに道普請の第1歩を踏み出しました。

以下にこのフォーラムの概要を報告いたします。



■基調講演 1

「これからの道路行政と地域づくり」

国土交通省道路局企画課長

谷口 博昭 氏

道路は社会の共有物、国民全体の共有物なので、行政だけが道路を管理しつくるという概念ではなく、国民皆のものとして参加してもらおう。そういったとらえ方をしていく必要がある。

「参加と責任」ということで、参加する、言いつ放し汚し放しということではなく、責任の大小は別にして、背負っていただいているかどうかということである。その中で責任ある行動なり、責任ある意見なり、提言が出てくるのではないかな。

それを「公と個」と言わせて貰っているが、「公と私」と言う対立概念になりがちであり、それを「公と個」に置き換えると、日本国民としての個であると言ったほうが理解が得られやすいのではないかな。

「参加と責任」という精神でこれからの道づくりをとらえ直していきたい。

本日の北の道普請といったようなものを、この札幌から、北から発信していただき、全国にこう言った道普請の精神を生かしていければと思う。

■基調講演 2

「みちを育てる、まちを育てる」

北海道大学大学院工学研究科教授

小林 英嗣 氏

公園をつくる、道路をつくる、住宅をつくる、それは簡単だ。サンフランシスコの都市計画の考え方では、コミュニティを再生したり、育てていくために公園、道路、住宅をつくるのだ。コミュニティを再生するために、再開発をするのだ。

育てるというのは、二つの意味があって、一つは生活の場として道路をつくり、維持し、利用することであり、もう一つは市民のコミュニティを、地域にコミュニティをつくり出していくことである。そういう両方を育てるというのがあるのだらうと思う。これから道づくりあるいはまちづくりで、コミュニティが大分荒んできているのが日本である。

これから50年経ったら道路行政をやって意味があったと思える状態になると思うので、道づくりはコミュニティづくりだ、人づくりだと思って、除雪などの苦情電話を受けるようにしてもらえればありがたいと思う。



国土交通省道路局企画課長

谷口 博昭 氏

●学歴・職歴

昭和47年	3月	東京大学工学部土木工学科卒
47年	4月	建設省入省
平成3年	4月	大臣官房技術調査官
6年	4月	道路局企画課道路環境対策室長
7年	4月	道路局国道課道路整備調整室長
7年	11月	国土庁計画・調整局調整課長
10年	11月	道路局高速国道課長
11年	7月	道路局企画課長
13年	1月	国土交通省道路局企画課長



北海道大学大学院
工学研究科教授

小林 英嗣 氏

●専門/都市計画、都市デザイン、地区環境計画など

●学歴・職歴

昭和46年	3月	北海道大学工学部建築工学科大学院終了
平成7年	4月	北海道大学工学部建築工学科教授
9年	4月	北海道大学大学院工学研究科教授

●委員会等

北海道都市計画審議会会長、北海道国土利用審議会委員

●著書

「日本の都市再開発史」(丸善)など都市計画、都市デザイン、まちづくり、地区環境計画、住環境計画に関する著書論文多数。



■スライド事例紹介、パネルディスカッション

講演後、道内の事例をスライドで紹介したのち、コーディネーターとして再び小林 英嗣教授を中心にパネルディスカッションが行われ、今後の道づくりについて現在取り組んでいることや道づくりに対する貴重な意見交換が交わされました。



パネリスト 室谷 元男 氏 [江差町 歴まち商店街協同組合理事長]

歴史的街道を大切に、ふれあい・交流のできるイベント、街並みギャラリー、玄関ギャラリー、ウィンドウギャラリー等も姿を現してきました。

道路事業の完成にあわせ、これからは江差の街並みにマッチした花や樹木を配置し、街並みづくりをさらに進めていければと思っています。

パネリスト 宇佐見 正光 氏 [花人街道237景観形成推進協議会会長]

花人街道237は、「人と花と出会う道づくり」をテーマに夢を持ちながら、それぞれが役割分担をしながら、知恵と情熱をささげながら、今、この富良野沿線の輪が大きく広がろうとしているところであります。住む人にとっても、観光客にとっても、お互いが対等な立場でパートナーシップを組んだ時に、魅力的な景観が生み出されるのではないかと考えております。

パネリスト 吉本 正則 氏 [岩内町 若旺会会長]

道路を一つの空間として、周辺環境整備と一体となった道路空間機能の整備をすすめております。歴史や文化といったコンセプトで周辺環境と一体化した整備を進める予定であります。

こうした中、若旺会と観光協会は、こうした道路のメンテナンス、清掃、樹木の管理、観光案内などに積極的に携わっておりまして、企画の段階から協議を進めております。

アドバイザー 黒柳 眞理 氏 [エッセイスト]

東京のある人が、ポプラですね、あの北大のところにも、本当にきれいな並木道がありますけれども、あれを東京に持っていてもあんなふうに真っすぐにはそだたなかったなんていうことを聞いておりますけれども、やっぱり空が高く、そして空気がきれいだから、あんなふうに北海道のポプラというのは真っすぐにのびるのではないかというふうに私は思ったりしています。

アドバイザー 竹内 きょう 氏 [都市環境デザイナー]

ストロイエ（デンマーク語、英語ではストレッチ）というのは、ただ一方向を向いた歩行者道1本のことを言っているのではなくて、その周辺に集められた小さな道のネットワークを含めてストロイエと言っています。それは延々と広がりを持っている。1本ではなくてネットワークを持ちながら道の周辺の空間を取り込んで都市をつくっているのです。

コーディネーター 小林 英嗣 氏 [北海道大学大学院工学研究科教授]

道を管理する、道を使う、そういうことだけでなく、地域を育て、あるいは次の世代を育てていったりする、そのような可能性、そういう場でもあるというお話を多くの方々からいただいた。

今日午前中に、「北の道普請を育てる会」の総会があり、これから積極的に活動していこうと決まった。いろいろなところで継続しながら、市民の方あるいは住民の方を含めてお話していくことが大事だ。フットワーク軽く動こうと思うので、いかようにでも対応できる。なにかあったら声をかけてもらいたい。

